

シリーズ『リニア中央新幹線ってどうなの？』④

リスクに対して時間調整で計画を完遂！？

JR東海が5月10日に発表した「超電導リニアによる中央新幹線の実現について」ではリニア中央新幹線建設にまつわるリスク要因として次の6項目が例として挙げられています。

- ①建設資材の高騰等による工事費の増大
- ②難工事等による工事遅延・完成時期の遅れ
- ③金利上昇
- ④経済停滞、人口減少による需要減
- ⑤高速道路無料化による収入減
- ⑥社会全体の物価上昇



会社はこれらのリスクに対して「工事のペースを調整し、債務縮減により経営体力回復のための時間調整を行うことで計画を完遂できる」としています。

時間調整でバイパスの役目はどうなるの！？

会社の計画では、計画通り順調に進んだとしても東京－名古屋間のリニア開業が2027年です。この十数年にも及ぶ長い建設期間の間に、上記に挙げたリスクが実際にリスクとして降りかかることは十分予想されることです。それを会社は工事を遅らせる或いは一時ストップして経営体力回復することでリニアは建設できると言っているのです。しかし、上記リスクが大きく立ちはだかった時には、超電導リニア方式は新幹線方式より約2兆円（東京－大阪間）も建設費が多くかかるかかるため、その分だけ開業までに時間がかかることとなります。

それでは、会社の挙げている中央新幹線の必要性（①東海道新幹線の大規模改修時のバイパス②大規模地震等の災害時のバイパス）からすると東海道新幹線の経年劣化は待ってくれませんし、地震等の災害が発生する確率も高まるでしょうから、バイパスとして必要なはずの中央新幹線が間に合わなくなる可能性が高くなってくるのではないのでしょうか！？